学校番号	302

平成 31 年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	現代の世界史　改訂版（山川出版社）						
副教材等	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・近現代を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる市民としての自覚と資質を養う。
・世界史を通して「共生の社会」「持続可能な社会」を考える力の育成を目指す。
・歴史を背景とした世界の国の諸事情を踏まえ、現在の日本の在り方を考える。

2　学習の到達目標

・世界の歴史の大きな流れや変化をしっかり理解すると同時に、人権の保障や異文化理解など、世界の歴史のなかで形成されてきた知恵や概念を継承していくべき教養の一つとして身につける。
・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代を中心とする世界の歴史に関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断してその過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり図表にまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	世界の一体化とヨーロッパ	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓にふれ、16 世紀頃から始まった世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	◎	○	○	◎	a:16～18 世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向、社会・文化の特質、アメリカ・アフリカに対する関心を高め、意欲的に追求し、考察しようとしている b: 16～18 世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向、社会・文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係について考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 c: 16～18 世紀にかけてのヨーロッパ世界の動向、社会・文化の特質、アメリカ・アフリカとの関係に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 d:ヨーロッパではルネサンスと宗教改革、新航路の開拓を経て主権国家体制が形成され、アメリカではヨーロッパ人による征服と入植・開発が先住民社会の変質を余儀なくしたこと、またアジア貿易への参入やメキシコ銀の流入がヨーロッパ経済の成長と転換をもたらしたことを把握し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

前期	近代の欧米社会（1）	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命、拡大する貿易活動などを通して、西ヨーロッパとアメリカ産業社会が成立し、市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	◎	○	○	◎	a:18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追求し、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことについて考えようとしている。 b: 18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命を考察し、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを判断して、一連の思考の過程を適切に表現している。 c: 18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に関する資料を収集し、適切に活用して、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを考察する技能を身につけている。 d: 18 世紀後半から 19 世紀にかけてのヨーロッパとアメリカについて理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

前期	近代の欧米社会(2)	19 世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会を通して自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。	◎	○	○	◎	a:1848 年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことに対する関心を高め、意欲的に追求し、考えようとしている。 b: 1848 年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことについて考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 c: 1848 年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことに関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 d: 1848 年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート
後期	ヨーロッパの進出とアジア、帝国主義とアジアの民族運動	オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊などを通して、世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の動揺のようすを理解する。	◎	○		◎	a:アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追求するとともに、その特質について考えようとしている。 b: アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌について考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 c: アジア諸国の内部で進行していた変化と、ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に関する資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 d: 世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の動揺を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

後期	第一次世界大戦がもたらしたもの	第一次世界大戦と総力戦としての様相、ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立、戦争と革命による国際秩序の変化、アメリカの大衆生活とその波及を通して、20 世紀初頭の変化の様相を理解する。	◎	○	○	◎	a:第一次世界大戦の原因と性格、平和の意義などに対する関心を高め、意欲的に追求するとともに、20 世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 b: 第一次世界大戦の原因と性格、平和の意義について考察し、20 世紀初頭の変化の様相について考察し、一連の思考の過程を適切に表現している。 c: 第一次世界大戦の原因と性格、平和の意義と 20 世紀初頭の変化の様相に関する資料を収集し、適切に表現している。 d: 第一次世界大戦の原因と性格、ロシア革命の展開とそれが世界に与えた影響、戦争と革命による国際秩序の変化、国際協調とヴェルサイユ体制、アメリカ的生活様式の資本主義への普及について理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート
	第二次世界大戦と戦後世界	第二次世界大戦とその後の冷戦、日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と独立、核兵器問題、グローバル化の進展を通して、20 世紀後半の国際情勢と、現代とのつながりを理解する。	◎	○	○	◎	a:第二次世界大戦の原因と性格、平和の意義などに対する関心を高め、意欲的に追求するとともに、20 世紀後半の国際情勢と現代とのつながりについて考えようとしている。 b: :第二次世界大戦の原因と性格、平和の意義、20 世紀後半の国際情勢と現代とのつながりについて考察し、一連の思考の過程を適切に表現している。 c: 第二次世界大戦の原因と性格、平和の意義、20 世紀後半の国際情勢に関する資料を収集し、適切に表現している。 d: 第二次世界大戦の原因と性格、平和の意義、20 世紀後半の国際情勢と現代のつながりについて理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ワークシート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。